

地域課題

人口減少・単独世帯・世帯の増加

玉名市は高校5校、大学1校ある地方都市。しかしながら、若者の流出が止まらず、人口減少。さらに、人々の孤立化が深刻となっている。

人の繋がり希薄化

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、それまでの人々の繋がりが縮小された。良好な人々のネットワークを発生させる必要がある。

あるべき姿

人々のネットワークを止めない
人々を繋ぐ

従来のサードプレイス(パブやカフェ)

- ・値段が高い(利用しにくい)
- ・人々が出会う装置ではない。

玉名市が目指すサードプレイスは

- ・人と人が繋がる
- ・公共空間を利用する
→まちあるき
→メイキングプレイス
- ・楽しさに引き込む
- ・重層的で魅力的な市民活動

期待される結果

小さな社会(人々の繋がり)をたくさん創る
近きもの悦ばば遠きもの来る

- ・様々な市民団体と個人が出会うことで、新たな繋がりを生み、それが地域の活性化(コミュニティビジネスやソーシャルビジネス)に発展する。
- ・玉名市のサードプレイスは、心理的安心空間を公共空間に創ることで、人々が出会うハードルを下げ、個々人が社会的な繋がりを獲得する機会とする。
- ・人々が自由に集えるコミュニティスペースの運営(古民家を改装し、耕作放棄地での作物販売で資金を得る。)

実施方法

組織立ち上げ

- ①仲間づくり
・私たちだけでは、実施できないので、私たちの想いに共感してくれる仲間を増やしたり、支援団体を増やす。
- ②組織づくり
・個々人の活動では限界があり、将来的な古民家改装した人々が自由に繋がるコミュニティスペースを運営の基礎をつくる。
- ③資金づくり
・社会的課題に取り組むことで、市のふるさと納税(クラウドファンディング型)に応募したり、大人の協力を得ながら資金を集める。

準備

公共空間さがし

市民の人々が気軽に参加できる。歩いてくれるエリアを探します。(まちあるき)

当面は、JR玉名駅前を検討中

まちの宝物さがし～仲間づくり～

出合いを大切にしたいので、いろんな活動をされている団体や個人などに協力してもらおう予定です。市役所などと協力、また本事業のPRを積極的に行い、仲間作りをして行きたいです。

実施

①まちあるき

私たちにとって一番気軽に接することができるのは「公共空間」だと思います。そうした公共空間を楽しみ、さらには人と人が繋がれる仕組み(イベント)を行います。

②人と人が繋がる

決して押しつけがましい感じではなく、例えば木陰に本棚とイスがあったり、駐車場に人工芝を敷いて、小さな子が自由に遊べる空間をつくったりすることで、新たな出会いを演出する仕組みを作ります。

古民家再生したコミュニティスペースの運営

本事業で生まれた繋がりが持続可能とするために、繋がりの場所を常設します。「玉名を知るためには、ここに行くといい」と思えるような、「繋がりのかなめ」になるような施設を運営したいと考えています。

例えばこんな古民家を改装したいと考えています→



実施主体：放課後地域創造クラブとは？

玉名市が開催した「玉名未来づくり研究所」という、39歳以下高校生以上で「玉名に住みたい、住み続けたい、私たちが帰ってきたい玉名を創る」というテーマで実施した事業から、実際に実現したいというメンバーが中心となり、さらに一般の方の協力をえて実現を目指すチームです。高校生、主婦、公務員、農業者などが参加しています。

ここから(玉名未来づくり研究所)から、新しい出会いが生まれ、未来を作り出そうとします。

